

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2016年(平成28年)9月1日 《年6回・奇数月発行》 会報 第90号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net

【カンボジア事務所】Phon Preytea, Sangkat Chaom Chao,Khan Por Senchy
Khan Por Senchy,(Borey Newtown) Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707

【ホームページ】AAC21 検索

【公式ブログ】メコンの風に吹かれて 検索

【Facebook】https://www.facebook.com/aac21.net 検索

デチョーアンカイン鈴木小学校誕生!

5月12日に急逝した故鈴木千雄さんが寄贈した「デチョーアンカイン小学校」(カンボット県チューク郡・生徒数50人)の新校舎(3教室)が完成、7月17日に贈呈式が行われた。日本からは根岸理事長が出席、地元からシアン・ブン・レン内務省大臣



鈴木さんに代わりスピーチする根岸理事長

夫妻ほか多数の要人・住民・生徒ら約500人が出席した。式の中で、鈴木さんを偲んで1分間黙祷がなされた。

贈呈式は当初、鈴木さんが出席して「ふれあいの旅」の中で行う予定だったが、出席する大臣の都合で14日に延び、更に悪天候のため17日に順延となった。

鈴木さんの代わりに式典でスピーチする予定だった、親友の遠藤啓さんも直前にカンボジア訪問をキャンセルするに至った。天国で鈴木さんが糸を引いているかのごとく、不思議なことが重なった。

校舎に加え、二本松ロータリークラブの神野宗介さんがトイレ棟を寄贈してくれた。

村には校舎がなく、民家の軒下を借りて授業をしていたが、現状を憂いた鈴木さんが資金を提供し校舎が完成した。子どもたちは心の底から完成を待ちわびていた。

新校舎の教室には、鈴木さんの遺影と、カンボジア政府からいただいた感謝状が飾られた。完成を心待ちにしていた鈴木さん、念願叶わず贈呈式には出席できなかったが、鈴木さんの遺志は、小さな村の小さな小学校で脈々と受け継がれることだろう。



立派な校舎が完成した

鈴木千雄さん急逝に思う

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

本会の里親会員、鈴木千雄さん(愛知県あま市)が5月12日、急逝された。享年77歳だった。

5月7日、東京の代々木公園で行われた「カンボジア・フェスティバル」に来てくださり、終日行動

力で建設中の小学校校舎が完成し、開校式に出席する予定だった。鈴木さんが残したカンボジア支援の業績は、簡単に説明することができない。資金協力だけでなく、まらず、ご自身が現地に足を運ん

をともした矢先のことだった。6月・7月と、カンボジアを訪問する予定があった。6月は9日から、愛知県板金組合青年部を中心とした皆さんが鈴木さんの引率で訪問、7月は鈴木さんの資金協

での支援の実績は、本会の中では突出している。にもかかわらず、そのことを自慢することなく、淡々と活動する様子は、多くの人たち共感と感動を与えた。私も、10数年の長いお付き合い

私たちが生き物である限り、いつかは土に帰る。高齢になればなるほど「その日」が近づいてくる。それまでは鈴木さんのように、人



一番弟子のクリム・クリル君に板金加工を指導する鈴木千雄さん

として恥かしくない人生を全うしたい。(写真提供:遠藤啓様)

秋の2大イベントに足をお運びください!

グローバルフェスタ2016

日時:10月1日(土)・2日(日)
午前10時~午後5時
会場:お台場センタープロムナード
(シンボルプロムナード公園内)

第39回練馬まつり

日時:10月16日(日)
午前10時~午後4時
会場:としまえん
練馬区向山3-25-1

テントにブースを設け、本会活動紹介、写真展示、会報など資料配布を行います。ボランティアでお手伝いしてくれる方を募集しています。(半日でも結構です)詳細は当会事務局までお問い合わせください。

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



里親さん、ありがとう

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば71年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくれました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【年会費】:子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。

【会費の用途】:年会費の40%が、学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金など、子どものために使われます。

年会費の60%が、夢ホームで暮らす子どもたちの生活費及び運営費、里子をケアして下さる各学校への謝礼金、現地スタッフの給料・ガソリン代・事務所家賃・車の減価償却費など現地でかかる経費、通信費・印刷費・人件費など東京の本部でかかる経費として使われます。

【サポート期間】:最低1年間単位ですが、少なくとも里子が学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。(年に一度、成績表も届きます)

【里子との交流】:里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。(お礼状と写真が届きます)

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、現在公的資金(税金)はいただいております。

児童養護施設夢ホーム日記

カンボジアのコンボンスプー県にある児童養護施設「夢ホーム」は、両親や片親を亡くしたり、親がいても家庭的に恵まれない子どもたちの生活と教育の場として、会員の皆様のご厚意により2009年3月に開園した。現在10歳～19歳の12人の子どもたちが暮らし、近隣の小・中・高校に通学している。

■ 扇風機を設置

鈴木春男さん(里親会員)と上山陽子さん(法人監事・里親会員)の支援により、図書館、食堂、居室に扇風機が設置された。暑いカンボジアでは扇風機はなによりの贈り物。感謝!



図書館に設置した扇風機

■ ふれあいの旅参加者が訪問

7月10日、第33回「カンボジアふれあいの旅」の参加者7人が夢ホームを訪問、魚釣りをしたりサッカーをしてひとときを楽しんだ。

新入園のスレイヌットちゃんも表情が明るくなり、元気に暮らしている。



子どもたちと釣りを楽しむ

カンボジアの2つの小学校に遊具を贈呈



辻敬子さんが寄贈した滑り台



青木右京さんが寄贈したブランコ

7月は、カンボジアの小学校(2校)にブランコ・滑り台が贈られた。ふれあいの旅の中で贈呈式を行った。贈呈したのは、辻敬子様と青木右京様(故人)。生徒たちは、我先にと遊具を楽しんでいた。

カンボジアの小学校に2つの井戸が完成

7月はカンボジアの小学校に2つの井戸が完成、7日・8日のふれあいの旅の中で贈呈式を行った。

井戸を寄贈してくれたのは、札幌西高校生徒教職員一同様と村西宏章様、ふれあいの旅の参加者ら7人が贈呈式に出席した。生徒たちは井戸の完成を待ちわびていた。



完成した井戸の前で子どもたちと

7月に完成した井戸の内訳			
	ネームプレート名	学校名	生徒数 所在地(県名)
①	札幌西高校 生徒教職員一同様	プリンカオン小学校	234人 コンボンスプー県
②	村西宏章様	クローク小学校	115人 トゥボンクモム県

※通算の井戸設置数(2003年～)＝285基(7月現在)

6月20日～7月3日、宮川公子さん(宮城県石巻市、里親会員)がカンボジアを訪問、2つの小学校で鍵盤ハーモニカと合唱を指導した。滞在した夢ホームでは、音楽や裁縫を指導した。2月に続き、今年2度目の訪問だった。



音楽指導する宮川さん

宮川公子さんが音楽指導

7月1日～12日、上山陽子さん(奈良県大淀町、法人監事・里親会員)がカンボジアを訪問、夢ホーム近郊のタメイ小学校で音楽指導、同幼稚園で遊戯指導を行った。上山さんはその後、第33回「カンボジアふれあいの旅」に合流した。



音楽指導する上山さん

上山陽子さんが音楽と遊戯指導

7月12日、石川桂副理事長が「トロパントム石川小学校」を訪問、「トロパントム石川小学校教育基金」が支援する10人の子どもたちに支援金を渡した。



住民懇談会であいさつする石川副理事長

トロパントム石川小学校を訪問

デチョーアンカイン小学校新校舎の完成に合わせ、トイレ棟(2人用)も完成した。神野宗介様(福島県二本松市)が寄贈してくれた。7月17日、新校舎と一緒に贈呈式を行った。



完成したトイレ棟の前で

7月14日、17日、「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市秋葉区、石川幸夫代表)の一行(3人)がカンボジアを訪問、15日、2年前に同会が校舎を寄贈した「トントロラッチにいがた小学校」(コンボンチャム県、生徒数200人)を訪れ、生徒たちに学用品を配った。



夢ホームの子どもたちと

又、午後にはプレイベーン県、バンクラッチ村を訪問、子どもたち(330人)に学用品を配った。同村には小学校の校舎がないため、同会はこの村に校舎を寄贈する予定。

7月6日～12日、第33回「カンボジアふれあいの旅」が行われ、本会会員ら7人が参加した。6日は移動日、活動は7日から。7日は、小学校を訪問して遊具(ブランコ・滑り台)と井戸の贈呈式に参加した。8日も同様だった。

9日は、「クメール教育里親基金」の活動として、教育支援する里子の家を訪問した。10日は日曜日、本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」を訪問、魚釣りなどして子どもたちと交流した。11日はプノンペン市内観光と自由行動、夕方には現地解散した。(12日に日本着)



盲人用ソロバンを手にする障がい児たち

「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」が今年2度目のカンボジア訪問



学用品を配る石川代表

クメール教育里親基金活動レポート

本会は、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親を失い、かつ貧しい家庭にいたるカンボジアの子どもたちが安心して学べるようにと、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在約390人の子どもたちを教育支援している。

7月9日に行われた「カンボジアふれあいの旅」の里子訪問では、旅に参加した稲吉忠さんの里子(2人)を訪問、お米のプレゼントを届けた。7月16日と19日には、里親さんから預かったプレゼントを根岸理事長が直接手渡し、残りを現地スタッフが届けた。



里子にプレゼントを届けた稲吉さん

里子家庭訪問記録

名前: コイ・ナリー君	学校名: チェレイホー・ブナウ中学校
年齢: 18歳	学年: 中学3年生
性別: 男の子	
住んでいる場所: コンボンスプー県 コンビセイ郡 ウィールコミュニティ プライチャライ村	
学校までの所要時間: 自転車40分	
好きな教科: 国語(特に本を読むのが好きです)	
苦手な教科: 算数(特に文法が苦手です)	
担任から一言: 成績:B 道徳:B 学校活動:B 健康:A 出席:B	
家庭状況: 現在、お母さんと暮らしています。お父さんは再婚しています。兄弟は2人です。(兄1人) コイ・ナリー君は第2子です。	
一日の過ごし方: コイ・ナリー君は毎朝5時頃起きます。学校へ行く前に、井戸から水をすくい上げ、野菜に水をやります。それから、朝ご飯を食べて、学校に通います。昼ご飯を食べてから、薪を切ります。夜、本を読み、先生から出された宿題をします。10時頃寝ます。	
好きな遊び: サッカーをするのが好きです。	
好きな食べ物: ランブータン、パイナップル、牛乳	
将来の夢: 教師になりたいです。	



薪を集めている写真

コイ・ナリー君はお母さんと暮らしていますから、家族の生活は大変です。
お母さんは毎日、少し野菜を作って、市場で売っています。ですから、コイ・ナリー君は家に帰ってから、手伝わなければなりません。
彼は「私のお父さんは再婚して、お母さんだけなので、毎日お母さんを頑張って手伝っています。勉強も頑張っています。」と言いました。

担当者: チア・スレイニッチ (現地スタッフ)

投稿 縫製工場で働き家計を支えています(レン・サンポス)

日本の皆さん、私はレン・サンポスといいます。17歳、縫製工場に働いています。
小学校3年生から教育支援を受けましたが、家計が苦しいため、中学1年生で退学しました。でもその後、里親さんに理解してもらい、学校をやめても生活支援してもらっています。

工場の仕事はともきついです。朝5時半、トラックの荷台に乗り1時間半かけて工場へ。仕事は7時に始まり、お昼休みがあつて午後5時まで働きます。月給は160ドルです。(1ドル1105円換算で16,800円)



レン・サンポスちゃん

円) 休みは日曜日だけです。お父さんは体が丈夫でないため働いていませんが、お母さんは同じ縫製工場に働いています。チャンスがあれば、もう一度学校へ行き勉強したいです。

写真展「アジアの子どもたち」を共同開催

6月13日(15日)、かながわ県民センター・展示場(横浜市中区)で写真展「アジアの子どもたち」を開催、沢山の人が来場してくれた。

本会と日本雲南南聯誼協会、レインボー国際協会、日本スリランカ国際文化社会開発協会の4団体が共同開催した。

各国の実情を理解してほしいと、今回から初日に活動報告会も開催した。

同展は2007年に第1回を開催、以後約2年に1度のペースで開催、今回が6回目だった。

及川理事が地元で写真展開催

7月5日(20日)、本会の及川英博理事(岩手県奥州市・里親会員)がカンボジアの現状を撮影した写真展が、地元の「水沢信用金庫東支店」で開催された。

多くの方がご覧になり、里親会員・個人会員の申し込みが相次いだ。地道ではあるが、一人ひとりに趣旨を説明し、理解していただくのが最良であることを改めて学んだ。

根岸理事長が聖ヶ丘高等学校で講演



カンボジア訪問前に事前研修

6月4日、根岸理事長が多摩大学付属聖ヶ丘高等学校(東京都多摩市)に招かれ、カンボジアについて講演した。同校では、秋の修学旅行でカンボジアを訪問することになっており、事前研修の一環として資料を配布し、約1時間ほどお話しした。

カンボジアがやっと修学旅行の対象になったことは喜ばしいことだ。

愛知県内の中学校生徒5人が来局



来局した生徒たち

6月8日、修学旅行の「職場訪問」の一環として、愛知県内の中学校より5名の生徒が来局した。「カンボジアにおける地雷処理の現状と貧困」について学びたいということで、本会の現地活動を紹介するDVDを見て頂いた後、根岸理事長が40分ほどテーマに沿ってお話しした。後日、とても勉強になったとの感想文が届いた。

チア・キムタ特命全権大使を表敬訪問



左から根岸理事長、チア・キムタ大使、チャイ・マカラー等書記官

6月24日、カンボジア王国大使館(東京都港区赤坂)を訪れ、チア・キムタ特命全権大使を表敬訪問した。時々お会いしているが、正式な訪問は今回が初めて。大使は快く迎えてくださり、ともに連携して活動を推進していくことを約束した。

初心者向けカンボジア語集中講座が終わる



集中講座を受ける会員の皆さん

カンボジアの子どもたちとの交流を推進するため、今年2回目となる「カンボジア語講座」を6月18日(19日)「銀座サロン」で開催した。2日間の集中講義方式で行われ、4人の会員さんが受講した。次回の講座は、9月(12月)にかけ、ほぼ毎週土曜日に本会事務所(東京都練馬区)で開催する予定。

板金指導と歯磨き指導のカンボジア訪問

6月9日(14日)、愛知県板金組合青年部(望月克治代表)と特定非営利活動法人リカバリサポートあいち(長田和人事理)の一行(10人)がカンボジアを訪問した。

当初は故鈴木千雄さんが引率の予定だったが、急逝のため叶わず不安を抱えながらの旅だった。しかし現地スタッフの協力、ほぼ予定通りの工程をこなして、想い出深い旅になった。

小学校を訪問して歯磨き指導、学用品配布、夢ホームでは、板



歯磨きを指導する神谷浩司さん

フンセン首相お父様の三回忌に出席

カンボジア、フンセン首相のお父様が亡くなって2年が経った。7月11日、プノンペン市内で3回忌法要が行われ、本会にも招待状が届いた。

丁度カンボジア滞在中だった根岸理事長が、懇意にしているシア・ブン・レン内務省大臣ご夫妻とともに出席した。大臣の奥様は、フンセン首相の妹にあたる。



遺影の前で

ベトナムからカンボジアへ スピードボートで国境越え！

中野 勝

いつもは飛行機で入国するが、7月7日、ベトナムからカンボジアへ初めて小型高速艇で国境越えを体験した。

ベトナムのホテルを6時45分に出発、船の乗り場に向かった。34人の乗客を乗せて、7時半に出航する。日本人は私と同行の稲吉さんの2人で、あとは欧米人だ。

私たち2人は日本でビザを取得していたが、他の欧米人は全員が持っていなかったため、ビザ取得にかなりの時間を要した。結局2時間以上かかったが、何とかカンボジア側の出入国管理事務所に到着した。

ここでも事務処理にもたついて時間がかかったが、何とか入国できた。地方の出入国管理事務所はハプニングばかり。

メコン川をさかのぼり、日本の援助で作った「つばさ橋」をくぐった。橋ができる前は、フェリーで往来していた。7、8年前、理事長とプレイヤーやスヴァイリエンに行くとき、フェリーをよく使ったのを思い出した。

橋を越えると2時間ほどでプノンペンに着き場に到着、予定よ

り2時間遅れの午後2時半だった。(兵庫県宝塚市、理事)



ベトナム⇄カンボジア間を走る
スピードボート



日本の援助で完成した「つばさ橋」

《夢ホーム》第27回鑄造による アクセサリ作り技術講習会

榎戸徹彦さん(横浜市・理事、里親会員)はほぼ隔月に夢ホームを訪問、子どもたちを対象にアクセサリ作りの技術講習会を開催している。

第27回講習会を7月26日、29日に開催した。

新しく加わった2人は、カリキュラムに沿って練習中。

他の子たちは、アンコールワットの指輪やバナナの形のペンダントなどを作っている。

次回の講習会を、9月27日、10月1日に予定している。



技術講習会の様子

初心者向け集中講座

カンボジア語を学んでみませんか

「21世紀のカンボジアを支援する会」では、カンボジアへの支援活動に加え、カンボジアの人たちとの交流も行っています。そこでネックとなるのが言葉の問題です。通訳を介さずに直接会話できれば、交流がさらに深まることでしょう。簡単な会話ができれば、子どもたちと話すこともできます。

そこで、初心者向けのカンボジア語講座を企画しましたので、奮ってご参加ください。

講座日程

日程：2016年9月24日(土)から12月17日(土)にかけて、
合計10回の講座を開きます。(毎週ではありません)
時間：午後2時～4時
会場：本会事務局
(練馬区豊玉上2-25-7 ゴールドパレス豊玉203号室)
講師：ノップ・ヴィサルさん
(カンボジア人留学生・明治大学国際日本学部在籍)
募集定員：5～7名 ※定員になり次第締め切らせていただきます
申し込み：電話・ファクス・メールなどで本会事務局へ。
講座の概要を郵送いたします。

「メコンの風に吹かれて」

根岸理事長が会の公式ブログ「メコンの風に吹かれて」に掲載した80編が一冊の本になりました。

200頁に満たない小さな単行本ですが、現地カンボジアのことを知るには良い教材です。

ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

電話：03-3399-1128 54

新しい仲間が増えました

2016年6月～7月の2ヶ月間で、9名のクメール教育里親会員様が新規に加入してくださいました。

活動に参加しませんか

ボランティアとして
学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年3回実施しています。

クメール教育里親基金

農村の貧しい子どもたちが学校に行けるようにと教育資金をサポートして下さる教育里親会員を募集しています。サポート金額は年間3万円(分割可)です。

会員として

・個人会員(年額105千円)
・法人会員(年額101万円)
・教育里親会員
(年額里子一人につき3万円)

会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替銀行振込み、現金書留で。

〈郵便振替口座名〉
21世紀のカンボジアを支援する会
(口座番号)
00130-0160916

※銀行振込をご希望の方は事務局へご報告ください。

※郵貯銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご報告ください。

書き損じハガキ・未使用切手・商品券等をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。

事務局便り

■9月1日より、成田⇄プノンペン間にANAの直行便が就航し、9月8日には根岸理事長がトライします。毎日1往復する初の直行便はカンボジアにとり、又本会にとっても追い風になります。せっかくの直行便、廃止にしないためにも、多くの方に利用して頂きたいと思っております。

■第34回「カンボジアふれあいの旅」の参加者を募集中です。アンコールワット観光やトンレサップ湖の視察もありますので、皆さんぜひご参加ください。締め切りは9月末日です。

9月～10月の予定

- 会報「アンコールワット」9月1日付第90号発行
- 根岸理事長、カンボジア訪問(9月8日、22日)
- グローバルフェスタ2016(10月1日、2日、お台場センタープロムナード)
- 第39回練馬まつり(10月16日、としまえん)

「夢ホーム」で子どもたちと楽しい交流・里子の家庭訪問・アンコールワット観光・トンレサップ湖、水上生活村の小学校訪問など

第34回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子どもの交流をはかることができます。

特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子どもたちが皆様をお待ちしております。あわせて学用品配布や井戸の贈呈式に参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。

もちろんカンボジアといえば世界遺産の宝庫、アンコールワット観光やトンレサップ湖水上生活村の小学校訪問もコースに入れました。なお、募集は原則として本会会員を対象にしておりますので、参加される方は、事前に会員登録(一〇5,000円)が必要になります。



「夢ホーム」の子どもたちが皆さんをお待ちしています



水上生活村の小学校を訪問します

■お問い合わせ・申し込み

旅行企画☆特定非営利活動法人
21世紀のカンボジアを支援する会
〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL: 03-3991-2854 / FAX: 03-3557-1213

【旅行期間】2016年11月3日(木)～11月9日(水)〈5泊7日〉

【募集定員】最少催行人員10名様(定員=20名)
先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。

【滞在ホテル】シティリバーホテル(シェムリアップ)2泊
ミトホテル(プノンペン)3泊

【利用空港】成田空港、関西空港、中部(名古屋)空港など

【旅行日程】3日=成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてカンボジアのシェムリアップ国際空港へ
4日=アンコールワット観光(自由行動も可能)
5日=トンレサップ湖、水上生活村の小学校訪問
シェムリアップ→プノンペンへバスで移動
6日=夢ホーム訪問、子どもたちとの交流
小学校対抗サッカー大会観戦又は買い物
7日=里子の家庭訪問(終了後は自由行動)
8日=プノンペン市内半日観光(午後は自由行動)
午後5時ホテルチェックアウトして帰国の途に
9日=早朝、成田空港、関西空港などに到着

【旅行代金】13万円～14万円を予定。
*現地までの航空券代、現地国内便の航空券代、現地での宿泊代、食事代、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。
*1人部屋希望者追加料金5泊10,000円。*傷害保険は各自でおかけください。*ビザ申請代(30ドル)、アンコールワット入園料(20ドル)等は現地に各自お支払ください。

【締切日】2016年9月30日(金)